

被災者「前へ」作品に願い

東日本大震災や熊本地震の被災者たちの作品を集めた企画展「つくることは生きることーいま、ここで生きているー2017」が24日、神戸市中央区の神戸ハーバーランドumieで始まった。添えられたメッセージには、前向きに進み始めた気持ちや、まだ頑張っているという訴えなど、被災者の歩んできた姿が浮かび上がる。

(山口昌平)



●被災者の思いが込められた作品に見入る来場者●被災者の制作の様子などをとらえた写真パネル(いずれも神戸市中央区)

ハッピードールなど神戸に展示

制作写真やメッセージ添え

被災者の思いが込められた作品に見入る来場者●被災者の制作の様子などをとらえた写真パネル(いずれも神戸市中央区)

会場に並ぶのは、2015、16年に作られたハッピードール1200点、ハッピーフラワー約800点など。連れて逃げられなかった犬や猫、行方が分からない人の帰りを願

うカエル、幸せを祈る四つ葉のクローバーをかたどった作品が目立つ。周囲のパネルには、表に被災者が制作する様子をとりこんだ写真、裏に被災者たちのメッセージが並んだ。

「今、こうして生きている。感謝、感謝の気持ちでいっぱいです」(陸前高田、料理店主)「『5年経ってまた復興してないの?』そう思わないでほしい。『がんばっぺ』そう思って今日も頑張っている人がたくさんいることを全国の人たちに知ってほしい」(南相馬、高校生)

「悩み、苦しみ、焦り、怒り：いろいろな感情が交錯する毎日」(相馬、小児科医師)

会場を訪れた神戸市兵庫区の堀本美枝子さん(77)は「いろいろな思いが伝わってドキツとした。できることは少ないけれど応援していきたい」と言う。高橋さんは「前を向



病院の入院患者らを中心にアートを通して心のケアに取り組みむ高橋雅子さん(60)＝写真＝が、東日本大震災を機に設立した市民団体「アーツ・フォー・ホープ」(東京)などの主催。高橋さんらは「被災者の心が晴れ晴れと、元気になれるひと時を」と活動を開始。これまで、避難所や仮設住宅、復興住宅など延べ約780か所を訪れた。

布やボタン、リボンなどを被災者に渡し、復興への願いを込めた人形「ハッピードール」、花やハートの「ハッピーフラワー」を作ってもらったり、つなぎ合わせた模造紙や透明のビニールをキャンパスに絵を描いてもらったり。達成感や自信が芽生えるよう取り組んでいる。企画展は昨年、東北、関東の8会場で開催。「思いがつながれば」との被災者の要望で、今年は広島、神戸、熊本の各市で行う。

3月3日まで。25、26日(午前10時～午後2時)は会場で、被災地を応援するハッピードールづくりができる。参加無料。